



あの日から75年 あの日を決して忘れない

松戸市在任 平和語り部

れいこ

大野 禮子

(大野さんの被爆体験は2面をご覧ください)

戦後75周年、世界平和都市宣言35周年の節目となる年を迎えました。
この機会に戦争について学び、平和について考えてみませんか。

長崎原爆資料館 所蔵

市長メッセージ



戦争体験を風化させないために

今年には戦後75周年、本市が世界平和都市宣言をしてから35年の節目の年となります。

時代は昭和から平成、令和となり、戦争を体験された方の高齢化が進み、直接その悲惨さや平和に対する想いを聞く機会が減ってきています。

今後も市民の皆さんへ戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを伝え、平和の大切さを訴える平和事業を続けていきます。

この夏、市民の皆さんも戦争や平和について家族や仲間と考えてみましょう。
松戸市長 本郷谷健次

原爆投下日・終戦記念日には 慰霊と平和の祈念をお願いします



昨年度の平和大使による黙とう

昭和20(1945)年8月6日8時15分に広島で、9日11時2分に長崎で、原子爆弾が投下されました。そして、8月15日の終戦から今年で75年になります。

戦争により亡くなられた方のご冥福と世界の平和を祈り、8月6日(休)・9日(日)の原爆投下時刻と、8月15日(出)12時は、各職場や家庭で黙とうをお願いします。

世界平和都市宣言

我が国は、世界で唯一の被爆国である。

何人も平和を愛し、平和への努力を続け、常に平和に暮らせるよう均しく希求しているところである。

しかし、現下の国際情勢は、緊張化の方向に進み市民に不安感を与えている。

かかる状況に鑑み、松戸市は日本国憲法の基本理念である平和精神にのっとり、平和の維持に努め、併せて非核三原則を遵守し、あらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願し、世界平和都市をここに宣言する。

昭和60年3月4日 松戸市

主な内容

- 原子爆弾の恐ろしさを学ぼう
大野禮子さんの被爆体験 2
- 松戸市の戦災状況(昭和19年~20年)を知ろう
〔企画〕地球のステージ×歴代平和大使【対談】 3
- 松戸市の平和事業
〔企画〕初代平和大使から青少年たちへ 4

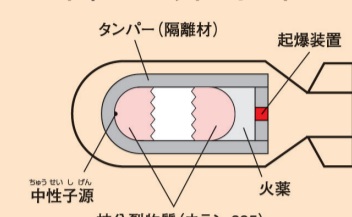
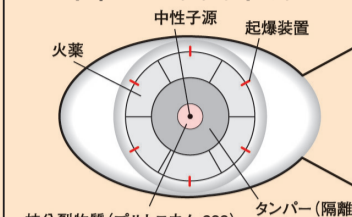
松戸市平和事業の企画に平和大使が参加しています

原子爆弾の恐ろしさを学ぼう

日本は世界で唯一の戦争被爆国です。太平洋戦争中に、広島と長崎に原爆が投下されました。2面では、原子爆弾の恐ろしさについて紹介します。

原子爆弾は、ウランやプルトニウムといった元素に中性子を衝突させたときに、原子核が連続して核分裂することにより発生する巨大なエネルギーを利用した兵器です。

広島と長崎では、原子爆弾が爆発した瞬間に巨大な火の玉が形成され、高温の熱線と強い爆風が大きな破壊力を生じました。また、爆発と同時に放出された放射線が身体の細胞を破壊し、被爆したときは無傷であっても、時が経つにつれてがんを発症するなどさまざまな症状を引き起こしました。

広島と長崎に落とされた原子爆弾	
広島型原爆	長崎型原爆
<p>コードネーム：リトルボーイ</p>  <p>長さ 3m 直径 0.7m 重さ 4トン 火薬を使った爆弾 1万5,000トン相当</p> <p>投下日時 1945(昭和20)年8月6日 8時15分 死者数(推定) 約14万人(当時の人口は35万人)</p>	<p>コードネーム：ファットマン</p>  <p>長さ 3.25m 直径 1.52m 重さ 4.5トン 火薬を使った爆弾 2万1,000トン相当</p> <p>投下日時 1945(昭和20)年8月9日 11時2分 死者数(推定) 約7万4,000人(当時の人口は約24万人)</p>

参考：広島市および長崎市ホームページ

大野禮子さんの被爆体験

松戸市平和事業「平和語り部(詳細は4面)」の講師である大野禮子さんは、国民学校5年生(10歳)の時、長崎市飽の浦町で被爆しました。

1945(昭和20)年8月9日。

その日は、澄み切った青空で蝉がジージーと鳴いていました。

ラジオから「敵の飛行機B29、天草から西北進、長崎に向かいました」と聞こえてきて、

『ピカーッ!』と光った途端

『ガタガタガタガタ、ドッシャーングッチャンガッチャンチャリンチャリン、バリンバリン、ゴォーッ、ゴォーッ!』と何とも言えない音がとどろきました。

私の一番上のお兄ちゃんは、中学2年生でした。

原爆が投下された日、お兄ちゃんは爆心地から500メートル離れた鎮西学院中学校に行っていました。帰って来ませんでした。

原爆が投下されて3日目を迎えても、帰って来なかったため、おじいちゃんと現在の長崎駅の方まで探しに行きました。

辺り一面灰と瓦礫の山で、真っ黒な骨組みだけ残った電車が見えました。みんな燃えてしまって、運転手さんは立ったまま、真っ黒な炭です。乗客も座ったまま、真っ黒な炭。目も鼻も口も髪の毛もわかりません。荷馬車の馬の目は飛び出していました。かろうじて生き残った人も水を求めて溢れかえっていました。用水路は死体の山で水もありませんでした。

目を背けたくなるような光景に、泣きながら家まで帰りました。

次の日、辺りが暗くなるとお兄ちゃんは突然帰って来ました。

お兄ちゃんは原爆がさく裂したとき、防空壕に飛びこんだそうです。しかし、昏睡状態になり6時間、土砂や瓦礫で生き埋めになり眠り込んでしまったところを、陸軍の兵隊に助けられ陸軍病院に運ばれたそうです。2日後に目が覚めると、怪我や火傷もなかったため、棒切れを杖にして3.2キロの山道を越えて家に帰って来たそうです。

しかし、次の日の朝、お兄ちゃんは起きてきません。

「頭が痛いから起きられんと」と言うので、熱を測ったところ、42度もありました。さらに舌は真っ白く煮えただれて、水も飲めない状態でした。

8月15日、終戦の日を迎えました。

「進駐軍が上陸してくるから、女子供は逃げなさい」と言われ、釣り船で24時間かけて、お母さんの妹が嫁いでいた五島列島にある網元の家に疎開しました。

お兄ちゃんは、何も食べることができず、毎日寝ていることしかできませんでした。

ある日、『どばーっ!どばーっ!』

お兄ちゃんは、鼻と口から真っ黒の血の塊を吐き出しました。

傷一つなかったのに、防空壕で吸い込んだ放射性物質によって、内臓が腐っていたのです。

「僕はもう死ぬかもしれないね。みんなを呼んで来て」

みんなを呼んでくると、お兄ちゃんは家族一人ひとりに語り掛けました。

みんなでお祈りをして讃美歌を歌ってあげると、お兄ちゃんはにっこり笑って目を閉じました。しばらくしたらパッと目を開けて、「母ちゃん、お水ちょうだい」

吸い飲みいっぱいあげると、ごくごく飲んで全部飲み干しました。

「おいしかった、ありがとう。今ね、白い着物を着たイエス様が僕を迎えに来てくれたんだよ。きれいな花が咲いていて、かわいい天使がいっぱい飛んでいて、きれいな音楽が聞こえてきた。きっと僕は天国に行けるんだよ」

そして、にっこり笑って静かに静かに天国に旅立ちました。

森下次幸。15日間何も食べていませんでした。食べられません。生きていたというより、生かされていた感じでした。亡くなった時には髪の毛は1本もありませんでした。そして体中には小豆大の紫斑点ができ、胸のあばら骨は標本室にある骸骨そのものでした。

このような体験を通して、皆さんに伝えたいことがあります。

二度と再び原爆を落としてはいけません。二度と再び戦争を起こしてはなりません。二度と再び核兵器を使ってはいけません。

核兵器の一番怖いところは、最後まで意識がなくなるということ。意識がなくなるということは、痛い、つらい、悲しい、悔しい、死にたくないなどの気持ちは感じるということです。お兄ちゃんはどんなに辛かっただろうか。でも、それをみじんも見せずに、にっこり笑って逝きました。

「戦争の悲惨さ、平和がどんなに尊いことか。このことをいつまでも、いつまでも忘れることがないように語り継いでいってください」

松戸市の戦災状況(昭和19年～20年)を知ろう

太平洋戦争末期、東京を空襲するB29は駿河湾方面上空から本土に侵入し、目的地に爆弾を投下後、松戸市域上空を経て九十九里浜から海上に離脱するコースをとっていました。爆弾を投下したB29は、日本軍の追撃(迎撃機および高射砲)をかわすために高高度に上昇し、高速で離脱を図りました。

そのため、機体を最大限に軽くすること、安全のために爆撃架に残っていた爆弾を捨てたと思われる空襲が松戸市内で確認されています。当時、攻撃目標となるような重要な軍需工場などは無いにもかかわらず、空襲の被害が報告されているのはそのためと推測されています。

日時	場所	死傷者	家屋などの損害	備考
昭和19年11月27日午後12時54分	高塚新田	1人重傷	母屋28坪全壊 物置6坪 損害額6,000円	米軍の攻撃目標は東京中島飛行機武蔵製作所、出撃機数81機(うち東京市街地港湾地区攻撃は50機)。目標上空時刻は13時7分から14時25分 ※この日の警戒警報11回、空襲警報7回発令。
昭和19年12月9日午前3時15分～59分	中矢切	なし	秦東工業株式会社 工場、倉庫、講堂など5棟400坪全焼 損害額140万円	米軍側の記録では当日のB29による夜間爆撃はなし
昭和19年暮れ(12月27日?)	大橋から陣ヶ前付近	なし	田畑に焼夷弾投下	12月27日の米軍の攻撃目標は、東京中島飛行機武蔵製作所、出撃機数72機。目標上空時刻は12時42分から14時3分
昭和20年2月25日夜	日暮	3人死亡	母屋25坪全壊 物置20坪半壊	米軍の攻撃目標は、東京市街地。出撃機数229機。目標上空時刻は13時58分から15時52分
同日0時25分	(日暮?)	9人死亡、3人重傷 1人軽傷	全焼1、全壊2、半壊4	250キロ級爆弾
同日7時20分～9時20分	(不明)	(不明)	全焼1	銃撃による
同日午後	河原塚	5人死亡、2人重傷	被災2戸	
同日14時30分～15時20分	(河原塚?)	1人重傷、1人軽傷	全焼20、半焼1	爆弾4発、焼夷弾1,520発
4月13日23時～14日2時20分	(不明)	2人死亡、3人軽傷	半壊2	被害は、味方の高射砲弾による。目標は東京赤羽の東京造兵廠周辺。目標上空時刻は、13日22時57分から14日2時36分
8月13日	松戸東部国民学校(現:東部小学校)	なし	第3校舎の屋根天井を貫通し床でとまる	銃撃による

出典：総務省ホームページ「松戸市における戦災の状況(千葉県)」から参考

企画 地球のステージ代表理事 桑山 紀彦氏×歴代平和大使【対談】

歴代平和大使(第6回大使・島田悠さん、第8回大使・田島歩夢さん、第8回大使・山下優月さん)の希望により、心療内科医師として国内外を問わず紛争・災害・貧困地で医療支援活動などを通して活躍されている、NPO法人地球のステージ代表理事の桑山紀彦氏との対談が実現しました。

「地球のステージ」とは

桑山さんが活動した地域での出来事をライブ、音楽と大画面の映像、語りを組み合わせたコンサートステージで、松戸市でも平成20年度から平和の集い(詳細は4面)の中で毎年公演しています。

山下さん

公演を観させていただいて、大量のごみが積まれた山で生活する、フィリピンの子どもの笑顔に胸を打たれました。

桑山さんご自身が現地で活動する中で一番驚いたことは何ですか？

桑山さん

パレスチナにあるガザ地区という、争いが絶えない地域を訪れた時、学校教育に特に驚きました。

山下さん

どうしてですか？

桑山さん

発展途上国と呼ばれる国では、子どもたちに国語や算数、英語をたくさん勉強させることが、将来、国を豊かにする人間を育てるために必要だと考えられています。そのため、図工や音楽、体育などは授業として存在しないのです。



対談の様子

しかし、私が現地で絵を描いたり、歌を歌ったりするイベントを開くと、子どもたちは目を見開いてついてきます。「こんなに楽しいものがあつたのか！」って。

現地では「そんな時間は無い」と主張する先生たちとの戦いでした。

田島さん

近年、日本でもボランティアに参加する人が増えているように感じますが、どのように感じていますか？

桑山さん

ボランティアという言葉はラテン語で自由意志を意味する「ボルンタス(Voluntas)」から来ていると言われています。つまり、自分が意志をもってやったことは全てボランティアなんです。反対に、人から言われてやったことはボランティアとは呼べません。このことはしっかりと肝に銘じておく必要があると思います。

それから、意志をどこで持つのか、きっかけも大切になってきますね。

田島さん

桑山さんご自身が現在の活動を始めようと思ったきっかけと、活動を続けられる要因は何ですか？

桑山さん

私が今、こうして世界各地で活動しているのは、20歳の時の自分を変えたい、という思いからでした。

ただ、50歳の今でもまだまだ情けないな、とも思います。しかし、もうこの歳だからといって諦めてしまったら終わりなんです。「まだまだやれる」そう思うことが続けられている要因だと思います。

島田さん

私も医療支援活動を志す者として、そのよう

な気持ちを持ち続けたいと思います。最後に若い世代に向けてメッセージをお願いします。

桑山さん

世界が繋がって合っているのか、そうでないのか。それは若い皆さんの気持ちがとても大切となってきます。

言葉や文化、習慣が違ったりすることにはきっと意味があると思います。私は「この壁を乗り越えてわかり合えたときに無上の喜びがある」と思います。

ぜひ恐れず世界と関わり、そこで得たものを故郷である松戸に活かしてください！



左から島田さん、山下さん、桑山さん、田島さん



千羽鶴献呈に参加してみませんか

平和の祈りを込め、鶴を折ってみませんか。(詳細は4面左下)

松戸市の平和事業

☎ 総務課 ☎ 366-7305



市ホームページ

松戸市が実施している平和事業を紹介します。

※詳細は市ホームページをご覧ください。

平和大使長崎派遣【中学生対象】

※今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い派遣を見送ります。



昨年度の平和大使

21世紀を担う中学生に戦争や核兵器の無い平和な未来を築こうという心を育んでもらうため、毎年8月に市内中学生を原爆投下の地である長崎市に「平和大使」として派遣しています。

「青少年ピースフォーラム」で全国の同世代の人たちと平和について話し合ったり、被爆者の講話を聞くことで、戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを学び、学んだこと、感じたことを周りの人たちに語り伝えていきます。

平和語り部【小・中学生対象】

戦争体験者の高齢化や核家族化が進んでいる中、次世代を担う小・中学生が直接戦争体験を聞ける機会が減少しています。そのため、戦争体験者が語り部として学校に訪問し、「戦争の体験」や「平和への想い」などを直接児童・生徒に話してもらえる機会を提供しています。



小学校での語り部

ピースセッション【市内大学留学生対象】



ピースセッションの様子

歴代平和大使と市内大学留学生などが、平和についての意見交換を行い、「平和の集い」で発表しています。

昨年度は、タイ・中国・ネパール・ベトナム・ペルー・日本出身の皆さんが集まり、「理想の平和」をテーマにレゴブロックで表現し、その実現に向けてどのような一歩が必要なのかを話し合いました。

平和の集い【全市民対象】

※今年度は、11月29日(日)に市民会館で開催します。内容は広報まつどおよび市ホームページでお知らせします。

心療内科医師として国内外を問わず紛争・災害・貧困地で医療支援活動などを通して活躍されている桑山紀彦氏が、コンサート形式でお伝えする「地球のステージ」公演、平和大使が平和の大切さを伝える「平和大使長崎派遣報告会」、国際平和を考える機会を提供する「ピース&ミュージックセッション」を行う平和イベントです。



桑山紀彦氏

「平和パネル・ポスター展」×「千羽鶴献呈」【全市民対象】

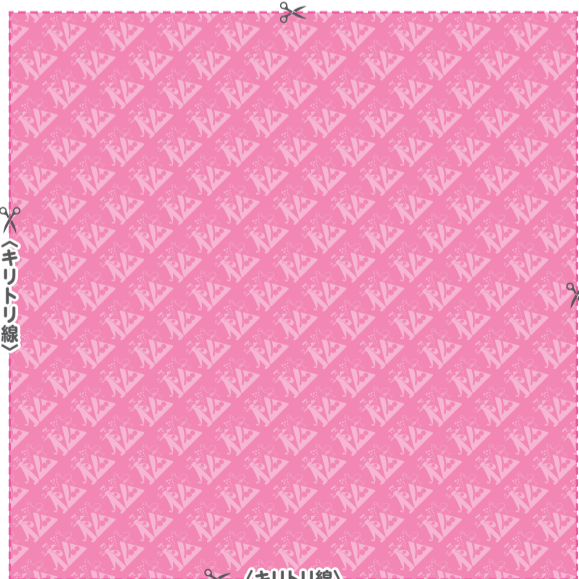
市民の皆さんに「平和の大切さ、平和を守る心」を育んでもらえるように、原爆に関する資料パネルや市内の小・中学生から募集した平和ポスター、市の「戦争記録保存資料収集」事業で収集した物品などの展示を行っています。折り鶴コーナーで折られた鶴は、千羽鶴にして平和大使の手で長崎の地へ届けられます。



昨年度献呈した千羽鶴

折り鶴に平和の願いを込めよう

下記の平和パネル・ポスター展で用意している専用ボックスに折り鶴を入れてください(今年度はテーブル等を設置していないため折り鶴を完成させてからお持ちください)。



✂ (キリトリ線)

※上記紙面を、キリトリ線で切り取ってください。両面折り紙ですので、お好きな面をご使用ください。

令和2年度平和パネル・ポスター展 開催のお知らせ

日時 8月3日(月)~14日(金)
各8時30分~17時(平日のみ)

会場 市役所1階連絡通路

内容 原爆写真パネル、サダコと折り鶴ポスター、ユニセフの活動パネル、松戸市出身知覚特攻隊員遺書パネルなど

費用 無料

☎ 総務課 ☎ 366-7305



昨年度の平和パネル・ポスター展の様子

企画 初代平和大使から青少年たちへ



けん と
清水健人さん
(総合病院国保旭中央病院勤務)

「普通の生活」とは何だろうか。当たり前なのだろうか。

私は、平成20年、中学1年生の夏に第1回平和大使として長崎に行きました。あれから12年の月日が流れましたが、長崎で平和祈念式典に参加したことや、原爆について学んだことを今でも鮮明に覚えています。そして、平和大使として参加した、松戸市の平和の集い「地球のステージ」で受けた衝撃は、その後の私に大きな影響を与えました。それは、世界の貧困な地域で活躍されている医師の公演でした。人の生き死にの儚さを感じ、平和大使の活動を通して当時の自分が送っている「普通の生活」は当たり前ではないのだと感じたことをよく覚えています。この夏がきっかけで少しでも多くの人の生き方を手助けしたいと思い、医師を強く志しました。そして、医師となった今、さまざまな患者さんと接し、難しさを感じながら日々模索しています。

今、新型コロナウイルスの影響で日常生活が大きく変化してしまっています。戦争でも原爆でも新型コロナウイルスでも、何かがきっかけで私たちの日常は変化します。そうしたときに冒頭の問いを考えることは重要です。人は何事も実際に体験しなければ、他人事のように感じてしまいます。中学生・高校生の皆さんには、私が平和大使という活動に挑戦したようなさまざまな体験を通して、自分のこととして多くの物事を捉えてほしいと思います。自分の未来を変えるきっかけはどこに転がっているかわからないものです。

思いを実際に行動に起こせる人は数少ないです。私は少しでも皆さんの挑戦を後押しできたら嬉しく思います。大変な時期ですが、今を今後の糧にできれば素敵ですね。

(令和2年5月19日)

平和基金への寄附にご協力ください

松戸市平和基金条例に基づき、市民の皆さんの寄附と市の予算から積み立てを行い、松戸市の平和事業の財源に充てています。

継承・啓発事業などを通して、平和を次の世代へ引き継いでいくために、皆さんのご協力をお願いします。

☎ 総務課 ☎ 366-7305



21世紀の森と広場

(左:被爆クスノキ二世、右:平和モニュメント「光風」)